

第7回 多職種勉強会

平成29年10月13日(金)開催

『元気高齢者をつくる口腔からの予防』 ～口腔からフレイル予防～

松阪市では、介護と医療に関わる様々な職種の方たちが顔の見える関係を深め、地域包括ケアを推進していこうと、平成26年より勉強会を開催しています。

7回目の今回は、『口腔』をキーワードに、講演とシンポジウムという二部構成での勉強会を開催したところ、在宅での医療・介護に関わる専門職162名が参加されました。

「口腔ケアからのフレイル予防」 松阪地区歯科医師会 黒井建志氏

【シンポジウム】

「デイサービスにおける口腔機能向上プログラムの実際」

JA 松阪ふれあいの里くしだ 所長 橋本直樹氏

「病院 ST(言語聴覚士)の口腔への取り組み」

桜木記念病院 言語聴覚士 丹羽由宇氏

「家族様への調理支援も含めた訪問栄養指導の症例」

松阪地域訪問栄養食事指導研究会 管理栄養士 泉知子氏

「地域連携で口腔ケアを継続している症例」～意識障害や重症者に対する口腔ケア～

松阪地区歯科医師会口腔ケアステーション 歯科衛生士 近田紀子氏

黒井先生の講演テーマにもある「フレイル」は日本語にすると「虚弱」です。実は日本の65歳以上の7.4%は、フレイルであると言われています。食べられない状態を「オーラルフレイル」と言い、例えば、滑舌が悪くなったり、固いものが食べにくくなったり、むせやすくなることです。

食べられない状態が長くなると、体力が低下したり活動量が減るなど、健康な状態から遠ざかってしまうことが簡単に想像できます。口腔ケアを意識し、お口の状態が改善されることで食事を美味しく食べることができるようになり、体力や活動量にも大きな効果が期待できる、ということになります。

口腔ケアは、お口の中をきれいにするだけでなく、呼吸機能や表情筋をよりよい状態にしていけることも含まれます。楽しみながら取り組んでおられる例も紹介していただきました。

また、自己判断だけでなく、定期的に検診を受けて、自分のお口の状態を知っておくこ

とも大切です。中には、検診に出向くことが困難な状態になっている方もあります。松阪地域には訪問歯科診療を行う歯科医師の登録が64名。口腔ケアステーションの歯科衛生士が16名おられます。必要に応じて相談していただくと思います。

さて。黒井先生の熱い講演のあとは、4名の専門職からお話しをいただきました。

橋本さんからは、デイサービスで実施している口腔機能向上のための取組と成果について。言語聴覚士の丹羽さんからは、口腔に関わるリハビリ専門職としての取組と成果について。管理栄養士の泉さんからは、栄養面だけでなく、食事の形態や調理をする介護者への関わりについて。歯科衛生士の近田さんからは、口腔ケアステーションに関わった事例について、それぞれから熱く語っていただきました。

その上で実施したグループワークからは、様々な声が聞こえてきましたので、以下にその一部をご紹介します。

食べることは、全身状態の改善にもつながる。

今回の勉強会で、口腔ケアステーションのことを初めて知った。

要介護者の健康状態を知るために、口腔内をチェックしている。

胃ろうと経口の併用ができるのは、いいと思った。

各職種の横のつながりがあるといい。そんな流れを作るためにも多職種勉強会がある。

介護予防領域において、栄養と運動には関心が高いが、口腔に関してはまだ認識が薄い。

食べる以外の口腔の使い方・楽しみとして歌ったりしゃべったりすることも大切にしたい。

通所サービスで、食事前の体操をしている。口腔ケアはなかなかできないけど、促していきたい。

勉強会を通して、様々な職種と関わり、知識を高めて、相談できる関係性を築いていきたい。

◎松阪地域の地域包括ケア推進のため、これからもご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

※「メディサポジャパン 2017 冬号」に関連記事が掲載されました。

「メディサポ 2017 冬号掲載資料(株式会社メディサポジャパン様作成)」と記したデータも併せてご覧ください。

事務局：松阪市健康福祉部高齢者支援課

☎ 53-4099 FAX 26-4035